

6.交通体系

現況道路網

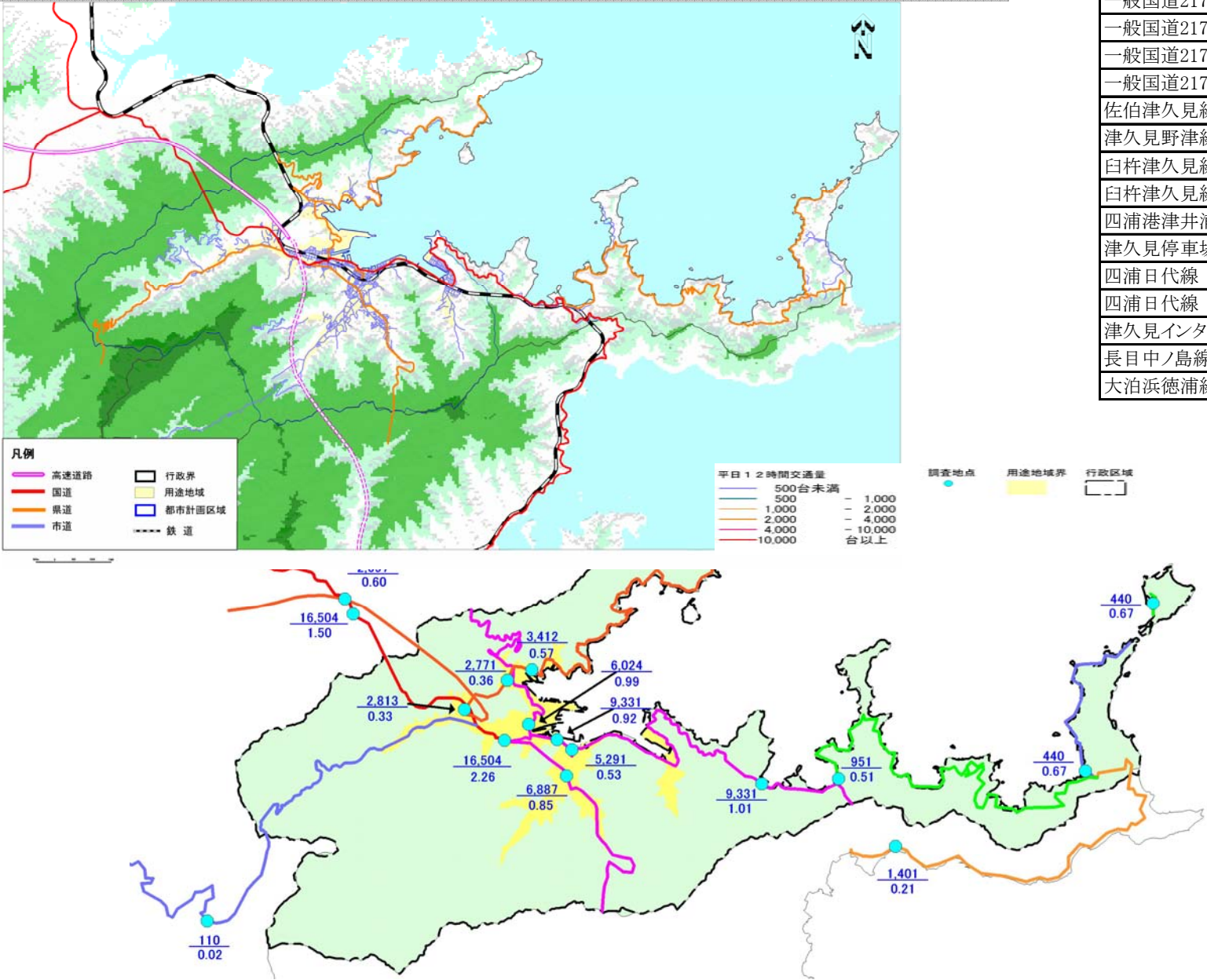
本市では、平成13年の東九州自動車道津久見インターチェンジの完成によって、九州各県からのアクセスが容易となり、さらに、平成20年6月の佐伯インターチェンジまでの延伸完了によって、県南及び宮崎方面からのアクセス性が向上することとなった。

市内には市街地の中心を通る国道217号や、主要地方道佐伯津久見線、県道臼杵津久見線、津久見野津線などがあり、津久見市における交通網の骨格をなしている。このうち、最も交通量が多い路線が国道217号であり、通過交通と都市内発生交通の混在によって平日混雑度が2.26に達している。

近年、地域間を連絡するトンネル道路の整備によって、中心市街地と周辺地域間の連絡性は大きく向上したが、狭隘な道路しかない半島部や山地部も残されており、災害時の孤立化対策の観点からも道路改良が求められている。

J R日豊本線が市街地を南北に分断する形で通過しており、一部道路については立体交差となっているが、大半の道路は踏切交差となっている。

リアス式海岸に沿って伸びる県道や山間部を連絡する道路等については、屈曲部が多く、また幅員が狭隘な箇所も多いため、日常的な通行において不便な状況が見られるほか、道路寸断時には代替道路を持たないエリアも残されている。



交通量

平成17年交通センサスによる交通量では、市街地内を通過する国道217号の交通量が15,000台/12hを超えており、混雑度も2.26と非常に混雑した状態となっている。（11年センサスの同区間の混雑度が1.92であったことから渋滞は悪化している）

その他の道路では、臼杵市方面と連絡する臼杵津久見線、佐伯市方面と連絡する佐伯津久見線といった県道の交通量が比較的多くなっているが、混雑度では1.0を下回っている。

津久見インターチェンジに関しては、平成13年供用開始後、利用台数が減少し続けていたが、平成16年を底とし徐々に回復してきており、平成19年度では1日平均入出台数では3,498台となっている。しかし供用開始時までは回復していない。（平成13年供用開始年の1日平均入出台数：3,718台）

路線名	観測地点名	平日自動車 種類24時間 交通量	平日自動車 種類12時間 交通量	(H11)平日自動車 種類12時間 交通量	H17/H11 交通量 増減	平日 昼夜率	休日 昼夜率	12時間 大型車 混入率 (%)	平日 混雑度
東九州自動車道	臼杵IC～津久見IC間	3,245	2,697	—	—	1.21	1.24	12.2	0.60
一般国道217号	(臼杵市大字東海添字内畑)	19,805	16,504	14,086	1.17	1.20	1.28	11.1	1.50
一般国道217号	津久見市新町9番2号	19,805	16,504	15,010	1.10	1.20	1.28	11.1	2.26
一般国道217号	津久見市中央町24番15号	11,167	9,331	9,325	1.00	1.20	1.28	6.1	0.92
一般国道217号	(津久見市大字日見字小浦)	11,167	9,331	3,064	3.05	1.20	1.28	6.1	1.01
佐伯津久見線	津久見市文京町2番2号	8,609	6,887	5,924	1.16	1.25	1.34	10.1	0.85
津久見野津線	臼杵市東神野字上宮本	129	110	76	1.45	1.17	1.27	11.8	0.02
臼杵津久見線	津久見市入船西町	7,048	6,024	6,670	0.90	1.17	1.27	11.7	0.99
臼杵津久見線	(津久見市大字徳浦)	3,519	2,771	2,716	1.02	1.27	1.27	11.9	0.36
四浦港津井浦線	佐伯市上浦大字最勝海浦字夏井	1,639	1,401	1,496	0.94	1.17	1.19	12.8	0.21
津久見停車場線		6,720	5,291	4,997	1.06	1.27	1.31	6.6	0.53
四浦日代線	(津久見市大字網代字向の平)	1,113	951	928	1.02	1.17	1.23	6.8	0.51
四浦日代線	津久見市大字四浦字落ノ浦	515	440	430	1.02	1.17	1.19	10.9	0.67
津久見インター線	津久見市大字上青江	2,489	2,813	—	—	1.17	0.00	8.3	0.33
長目中ノ島線		761	599	1,517	0.39	1.27	1.27	3.3	0.21
大泊浜徳浦線	(津久見市徳浦本町)	3,992	3,412	3,343	1.02	1.17	1.20	18.5	0.57

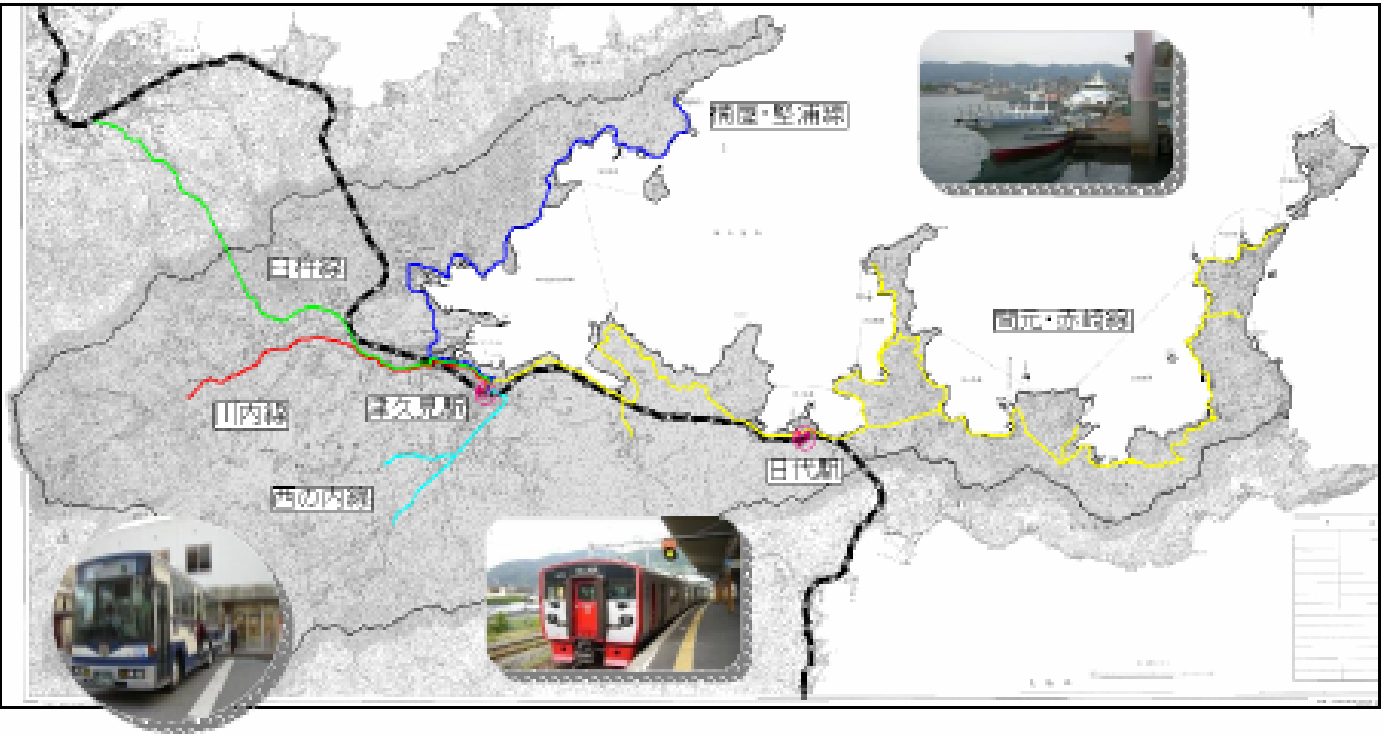
表 津久見インターチェンジの利用状況 (台/年)

区分		H12	H13	H14	H15	H16	(構成比)
流入台数	総数	—	186,677	680,183	636,212	614,418	100.0%
	軽自動車	—	25,994	94,675	89,249	88,228	14.4%
	普通車	—	153,263	552,623	513,022	491,631	80.0%
	中型車	—	4,810	20,110	20,498	20,796	3.4%
	大型車	—	2,333	11,332	12,238	12,476	2.0%
	特大車	—	277	1,443	1,205	1,287	0.2%
流出台数	総数	—	166,539	618,078	582,190	560,491	100.0%
	軽自動車	—	21,539	80,404	77,679	76,892	13.7%
	普通車	—	138,772	508,825	474,722	453,422	80.9%
	中型車	—	3,946	16,828	17,050	18,164	3.2%
	大型車	—	1,988	10,606	11,462	10,880	1.9%
	特大車	—	294	1,415	1,277	1,133	0.2%
1日平均入出台数		—	3,718	3,557	3,329	3,218	—
(H13=1.0)		—	1.00	0.96	0.90	0.87	—

6.交通体系

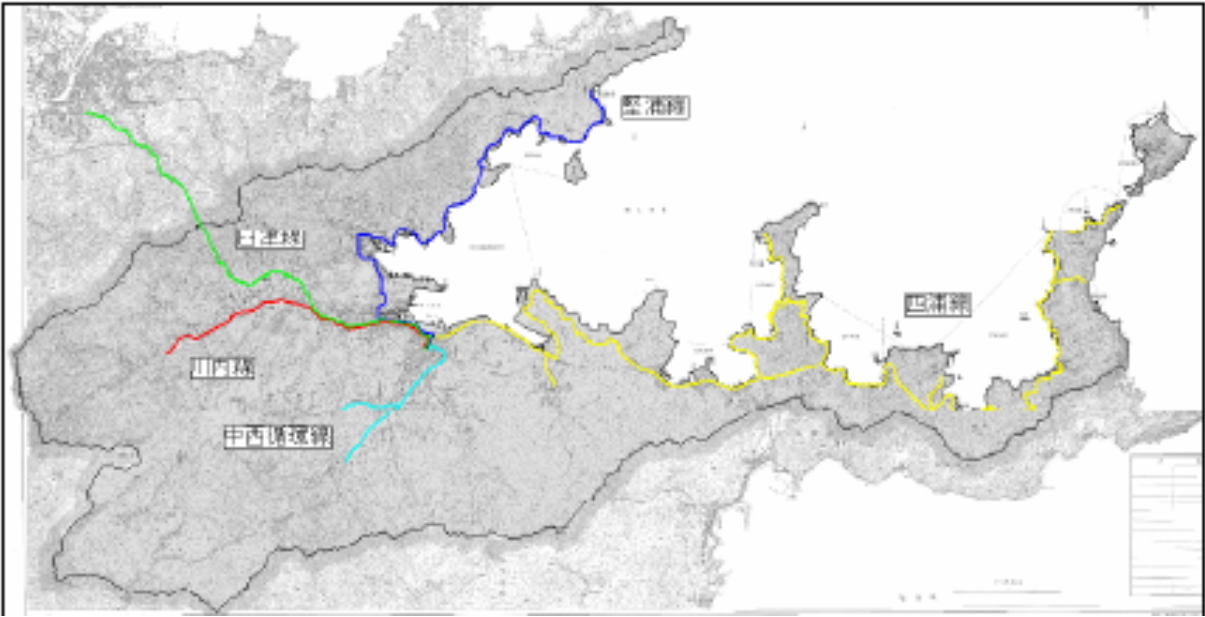
市内交通の状況

本市にはJR九州の日豊本線が通っているとともに、津久見駅を中心に各集落へ向かう臼津交通株式会社が運行する路線バスが5路線ある。
また津久見港からは離島航路として、保戸島、無垢島へ向かう船舶が有限会社や丸及び本市直営により運行している。

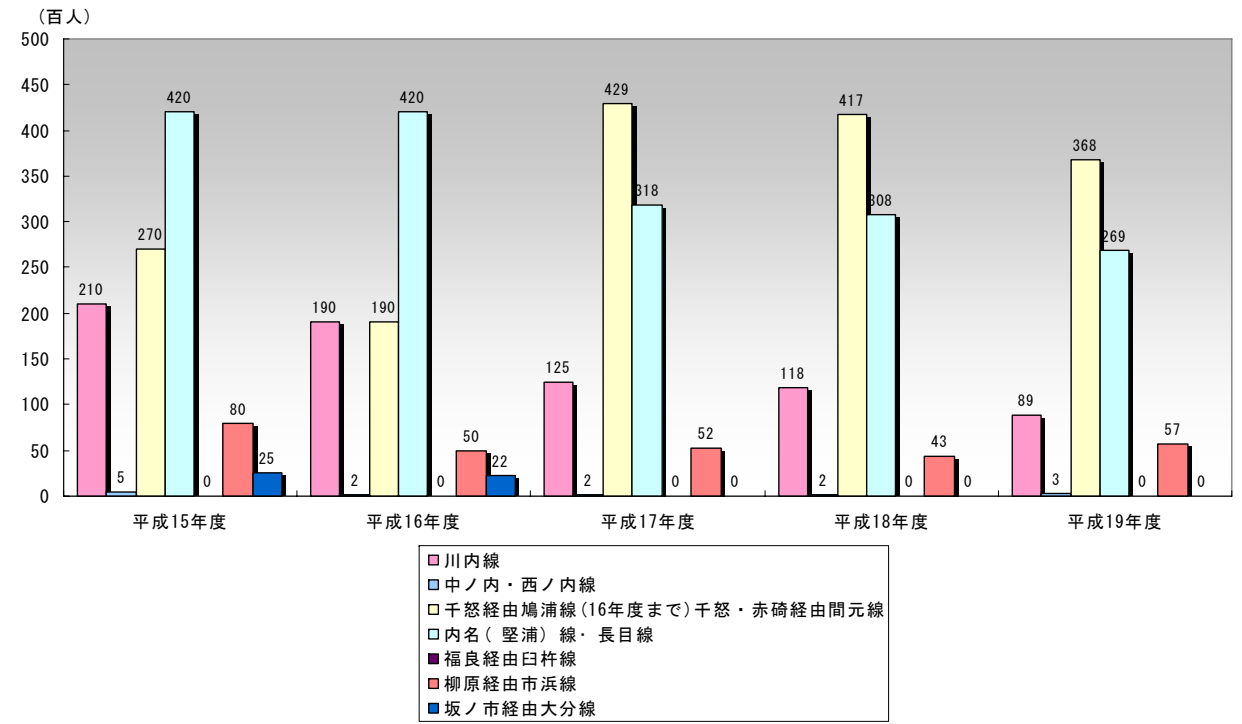


路線バスの状況

現在、民間路線バスが臼津交通株式会社により5路線（15系統、うち3系統が補助事業系統）運行している。それぞれ津久見駅を起点とし、各集落へ向かう運行体系となっている。5路線の内4路線が津久見市内のみを運行し、残り1路線が本市と臼杵市を結んでいる。本市は地形的な条件からリアス指揮の海岸線を運行する箇所が多く、特に四浦線、楠屋線は車両の離合など運転上危険を伴う箇所がある。
臼津線は津久見市と臼杵市を結ぶ広域的な路線であり、津久見市民が臼杵市になる病院へ通院するために利用している。残りの川内線及び中西循環線は津久見駅と市住宅地を結ぶ路線であり、どれも住民にとって必要な路線となっている。



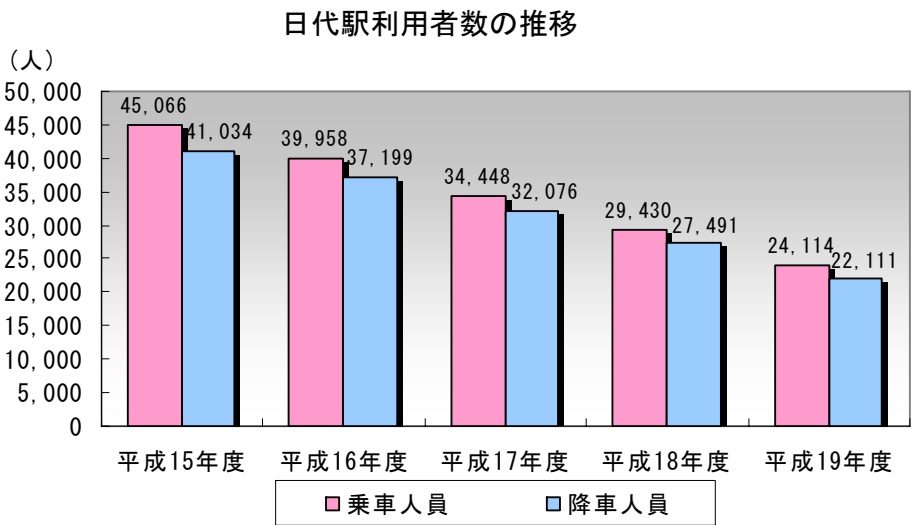
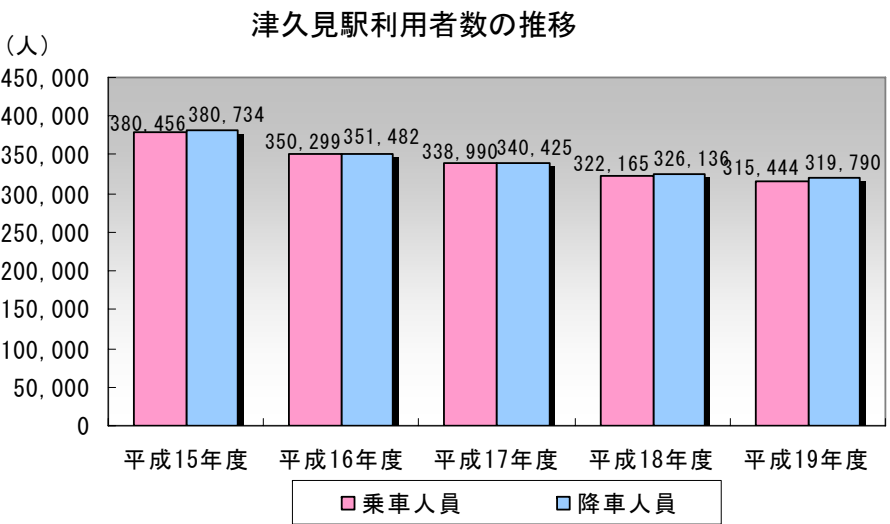
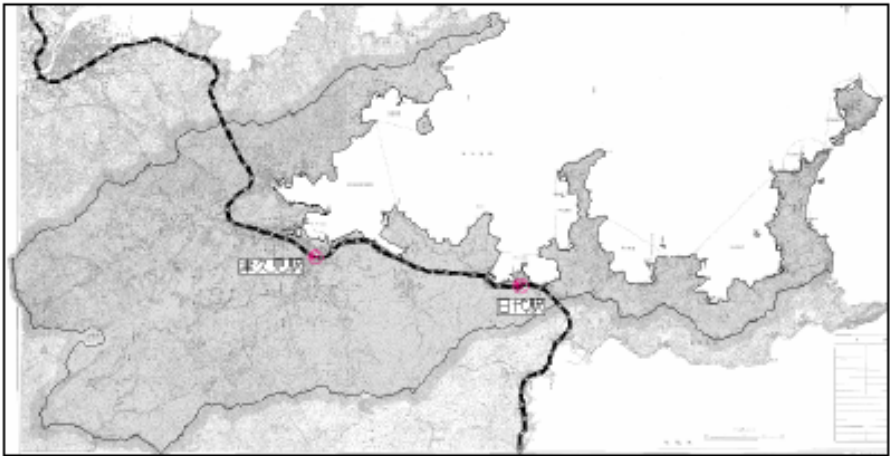
市内バスの利用者状況の推移



6.交通体系

鉄道の状況

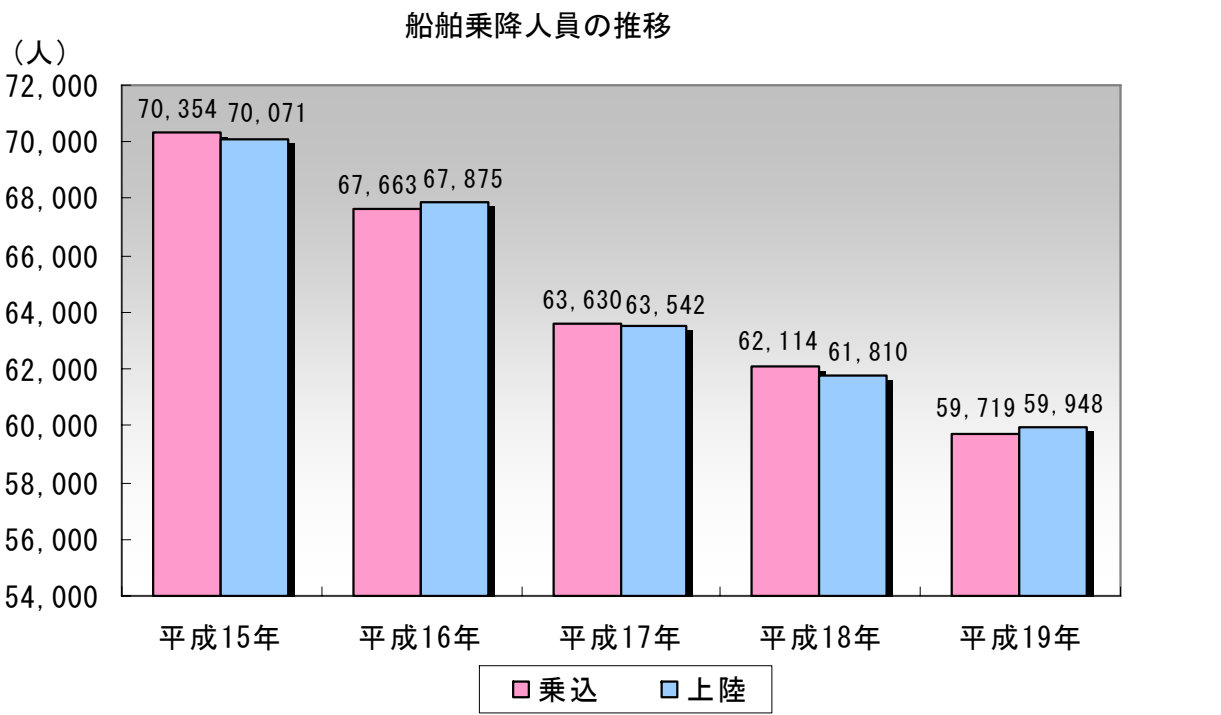
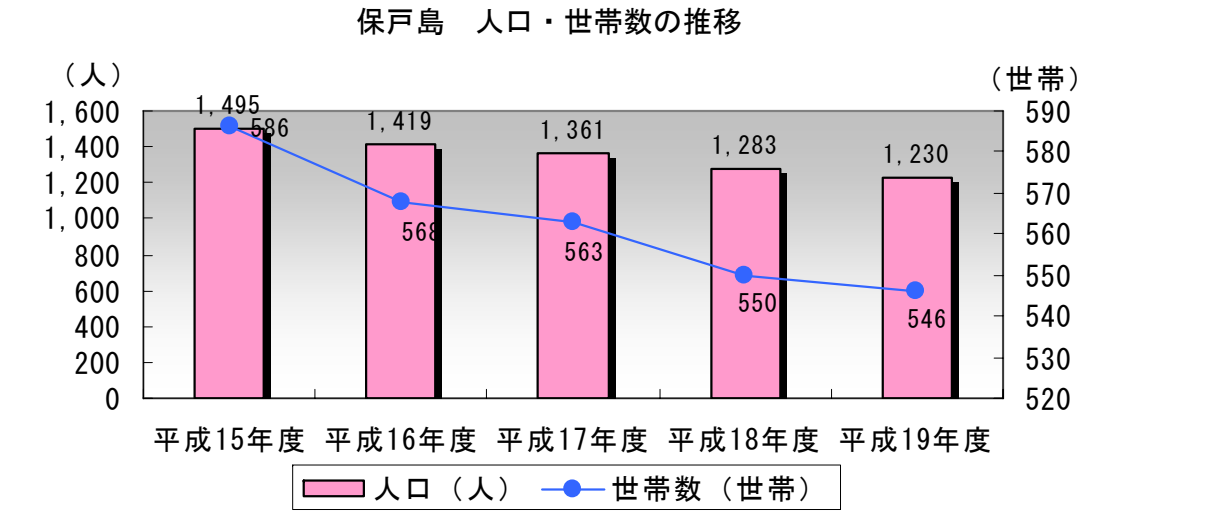
JR九州の日豊本線が通っており、津久見駅と日代駅の2駅がある。利用者は主に朝夕に集中し、市外へ通勤通学に利用している。特急列車は津久見駅に全便停車し、大分市や福岡市、延岡市や宮崎市に行く人の足となっている。日代駅は昭和59年より無人駅となっている。



離島航路の状況

平成20年度現在、津久見市において2つの離島航路が就航している。ひとつは有限会社やま丸が運行する津久見港と保戸島を結ぶ航路で、現在毎日7往復している。もうひとつは、津久見市直営で運行する津久見港と無垢島を結ぶ航路で、月から土曜日1往復、水及び日祝日2往復結び、島民の重要な生活航路となっている。しかし近年、急激に進展する少子高齢化を受け、離島航路の利用者の確保が十分でなく、その維持に多額の費用がかかっており早急な対応が迫られている。

津久見港の乗降人員
平成15から19年をみると、乗込、上陸ともに減少傾向をしめしており、平成19年現在、平成15年比約86%となっている。



7.地球環境問題への対応

津久見市の環境対策

廃棄物（家庭ごみ）

本市では、可燃ごみを焼却処分しないで資源として再利用するために、ごみ処理施設ドリームフューエルセンター（ごみ固形燃料化施設）で可燃ごみを加工して固形燃料を作っている。

固形燃料を作るときに本市特産の生石灰を加えるJーカトレル方式を採用したことにより、可燃ゴミから水分を除くのを助け、固形燃料の保存性を良くしている。

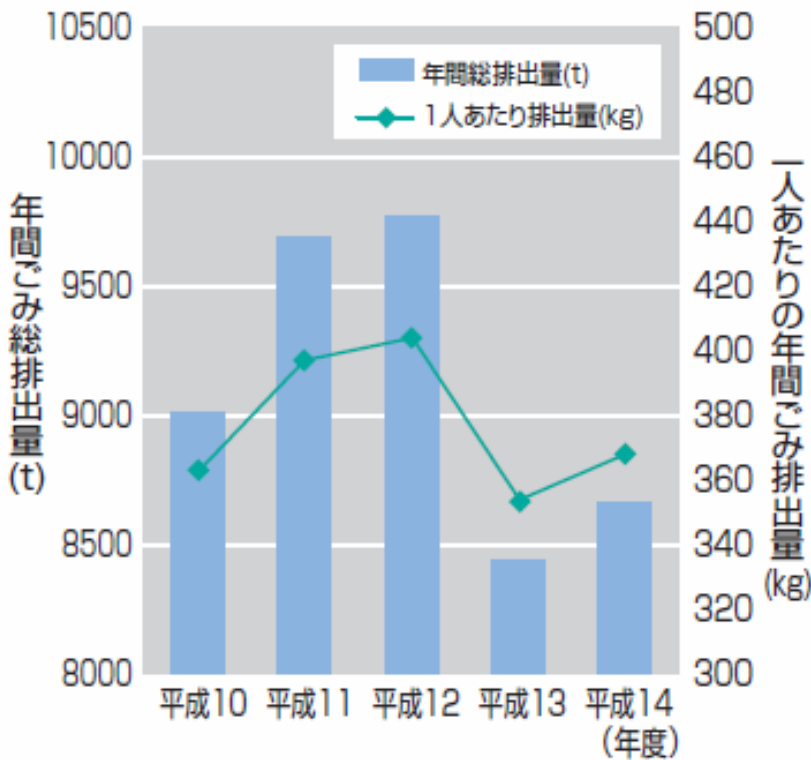
また、固形燃料は本市の主要産業であるセメント工場の燃料として使用され、その灰もセメント原料として利用されています。

本市における過去5年間のごみ排出量の状況は、平成12年度をピークに減少する傾向にあるが、一人あたりのごみ排出量は、1年間で約368kg（1日1kg）のごみを出していることになる。



右:ドリームフューエルセンター(大分県津久見市)

下:可燃ごみ固形燃料(RDF)



8.その他

合併について

臼杵市・津久見市任意合併協議会

この協議会は、法令の規定に基づかない任意の協議会とし、歴史的にも、また、文化的、経済的にもつながりの深い臼杵市と津久見市にとって、地域の再生と発展、地域住民がふるさとに誇りを持ち、安心して暮らせるための将来像をはじめ、両市の合併の可能性について検討協議することを目的としている。

合併に至った場合でも、津久見の特徴を今後に残し、引き継いでいくため、今回策定する都市計画マスタープランに地域のまちづくりの方針を載せていくものである。

臼杵市・津久見市任意合併協議会の動向

	開催日	協議事項
第1回	平成19年7月4日(水)	(1)臼杵市・津久見市任意合併協議会規約 (2)臼杵市・津久見市任意合併協議会の会議の運営に関する諸規程 (3)臼杵市・津久見市任意合併協議会の組織等に関する諸規程の制定について (4)平成19年度臼杵市・津久見市任意合併協議会事業計画について(PDF) (5)平成19年度臼杵市・津久見市任意合併協議会予算について
第2回	平成19年8月23日(木)	視察研修(両市管内施設) 1. 臼杵市ケーブルネットワークセンター 2. ニュータウン小郡の丘 3. 黍野(きびの)たばこ畑 4. ほんまもの里うすき農業推進センター 5. 臼杵市不燃物処理センター 6. 太平洋セメント(株)大分工場 7. 津久見市民図書館
第3回	平成19年10月30日(火)	視察研修(両市管内施設) 1. 臼杵市し尿等前処理施設 2. 津久見港埋立地 3. 森林管理道 長目半島線 4. 無垢島・保戸島 5. 深良津二世養殖漁業生産組合 6. 農免農道 四浦地区 7. 津久見市仙水游魚センター 8. 国道217号 千怒・日見バイパス 9. 津久見第二千怒土地区画整理事業 10. 広域農道 関臼津2期線 11. 津久見港埋立地(牛ヶ浦地区)
第4回	平成20年2月1日(金)	(1)報告事項(両市の状況について)(PDF:48KB) ①臼杵市・津久見市の基本的な状況(人口等)について ②貸借対照表(バランスシート)について ③合併しない場合の財政状況の見通し(5年間の仮試算)について ④定員管理計画及び職員数等の状況について ⑤両市の課題について
第5回	平成20年5月2日(金)	(1)報告事項 ①臼杵市・津久見市任意合併協議会規約の一部改正について ②平成20年度臼杵市・津久見市任意合併協議会予算について (2)協議事項 ①平成19年度臼杵市・津久見市任意合併協議会決算について

